

平成29年度 学校経営計画に対する自己評価計画書（最終報告）

石川県立門前高等学校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度に向けた改善策等
1 主体的な学びと進路実現を目指して、授業改善と家庭学習の習慣化を図る	① 生徒の学習意欲の向上を目指して授業改善を図る。	【努力指標】（教員） 公開授業を年間3回以上実施する。	年間3回以上実施した教員の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	（教員） 公開授業を年間3回以上実施した教員の割合 B 60%以上 （12月教員アンケート結果）	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討  【分析】公開授業により、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢が身についたかを検討する必要がある。
	② 効果的な授業改善を行うため、他教科の公開授業を参観する。（小中学校を含め、他校の公開授業参観も含む。）	【努力指標】（教員） 公開授業を3回以上参観する。	年間3回以上実施した教員の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	（教員） 公開授業を3回以上参観した教員の割合 A 70%以上 （12月教員アンケート結果）	【今後の取組】生徒の主体的学びを促すために、アクティブラーニング的な活動を取り入れた学習指導法について理解を深め、授業力向上につなげる。
	③ 授業のねらいを明確にし、学習内容の定着を図る。	【満足度指標】（生徒） 適切な指導によって学習内容が理解できた。	授業内容を理解できたと実感する生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	（生徒） 授業内容を理解できたと実感する生徒の割合 A 90% （12月生徒アンケート）	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討 【分析】「概ね理解できた」に回答が多く、Aと回答する生徒が増えるよう授業改善に努める。 【今後の取組】生徒の授業理解を深めるため、授業準備（予習・復習）の仕方を工夫する。
	④ ICT機器を活用した授業を行う。	【努力指標】（教員） プロジェクト稼働実績を向上させる。	プロジェクト稼働実績が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	（教員） プロジェクト稼働実績の割合 A 40%以上 （12月教員アンケート結果）	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討 【分析】プロジェクト稼働実績は高くなってきている。今後も積極的に使用していく。 【今後の取組】ICT機器を用いて、生徒の授業理解度向上につなげる方法について教員間で情報交換を行う。
	⑤ 生徒の学習支援に関する研修会及び情報提供を行う。	【満足度指標】（教員） 学習支援方法について理解が深まった。	学習支援方法の理解が深まった教員の割合が A 60%を越えた。 B 50～59%であった。 C 40～49%であった。 D 40%未満であった。	（教員） 学習支援方法について理解が深まった教員の割合 A 60%を超えた （12月教員アンケート結果）	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討 【分析】支援を要する生徒が増えており、さらに職員の指導力の向上を目指す必要がある。 【今後の取組】研修等を通してインクルーシブ教育について理解を深めるとともに、具体的学習支援方法を共有する。
	⑥ 習熟度別授業、進路別授業、補充授業、個別指導を実施することで、個々の進路目標を達成するために必要な学力を養う。	【成果指標】（教員） 第1・2志望校の模試判定が向上する。	第1・2志望校の模試判定が向上した生徒が A 70%を越えた。 B 50～70%であった。 C 40～50%であった。 D 40%未満であった。	（教員） 模試判定が向上した生徒の割合 C 40～50% （対外模試結果）	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討  【分析】生徒の進路実現に向けて学習の定着度を十分に把握し、生徒の学習意欲を引き出すよう改善していくことが必要である。
	⑦ 個人面談などを何度も繰り返すことによって、個々の進路希望、適性を考慮した指導を行い、家庭学習習慣の定着を図る。	【成果指標】（生徒） 家庭学習時間が多かった。	家庭学習時間が多かった生徒が A 70%を越えた。 B 50～70%であった。 C 40～50%であった。 D 40%未満であった。	（生徒） 家庭学習時間が多かった生徒の割合 C 40～50% （12月生徒アンケート）	【改善策】家庭学習習慣の定着、進路意識の早期確立、個別指導の充実を図り、生徒の学力向上と進路実現を図る。
	⑧ 門高読書タイムや図書館講座を実施し、読書に集中して取り組む時間を確保することで、読書習慣を身につけさせる。	【成果指標】（生徒） 年3冊以上の本を読んだ。（読書タイムに読んだ本も含む。）	年3冊以上の本を読んだ生徒の割合が A 60%以上 B 50%～59% C 40%～49% D 40%未満	（生徒） 年3冊以上の本を読んだ生徒の割合 C 40%～49% （12月生徒アンケート）	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討  【分析】読書活動の意義を継続して伝え、意識向上を図る必要がある。  【改善策】読書タイム以外の時間にも本を読む習慣が身に付くよう、来年度は教科の授業とも連携して読書につながる具体的な活動を検討する。
学校関係者評価委員会の評価	タブレットを使用した授業など、スキルの向上を目指しながら生徒を観察していくのは大変だが、教員である以上は積極的に取り組んでほしい。また、地域を巻き込んで生徒をたくましい大人に育て、社会で生き抜いていける力を身につけさせて欲しい。また、進路の意識づけは保護者の協力や本人の自覚が必要である。				
評価結果を踏まえた今後の改善策	教員のスキルアップはもちろん、保護者や地域の人々と連携した生徒への働きかけを強めていく。				

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度に向けた改善策等	
2 規範意識や協働する意識を養い、地域に貢献する人材の育成を目指す。	① 保健委員の協力を得て、学校環境の整備と美化を行うよう努める。	【成果指標】（生徒） 生活環境の整備、美化に努めた。	肯定的な評価をした生徒の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	（生徒） 生活環境の整備、美化に努めたと肯定的な評価をした生徒の割合  A 80%以上 (12月生徒アンケート)	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討  【分析】生徒の美化活動に対する意識は良好である。  【今後の取組】今後も現在の取組を継続して行う。	
	② 学校生活全般において、身だしなみを整え、挨拶や正しい言葉遣いをする。	【成果指標】（生徒） 身だしなみや言葉遣い、挨拶が良くなった。	身だしなみや言葉遣い、挨拶が良くなったと感じた生徒の割合 A 85%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	（生徒） 身だしなみや言葉遣い、挨拶が良くなったと感じた生徒の割合  A 85%以上 (12月生徒アンケート)	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討  【分析】身だしなみ、挨拶は取組の成果が現れているが、言葉遣いについては、馴れ合いにならないよう指導を徹底する。  【今後の取組】身だしなみ、挨拶については取組を継続する。言葉遣いについては教師が手本を示し、指導を行う。	
	③ 携帯電話等使用のルールやマナーを守る。	校内での携帯電話の使用ルールを守った。	【成果指標】（生徒） 携帯電話の使用ルールを守った生徒の割合 A 85%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	携帯電話の使用ルールを守った生徒の割合  A 85%以上 (12月生徒アンケート)	（生徒） 携帯電話の使用ルールを守った生徒の割合  A 85%以上 (12月生徒アンケート)	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討  【分析】校内での使用ルールは浸透しているが、家族との連絡以外に放課後使用する生徒が依然見られる。  【今後の取組】今後もスマートフォン等の危険性を説明し、指導を継続しながら生徒自身がその危険性を意識し、モラルを守る力を涵養する。
			【成果指標】（教員） 生徒は、校内での携帯電話の使用ルールを守れている。	使用ルールを守れていると感じた教員の割合 A 85%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	（教員） 使用ルールを守れていると感じた教員の割合  A 85%以上 (12月教員アンケート結果)	
【努力指標】（教員） 家庭で携帯電話等の使用の仕方について話し合いを持たせる。			携帯電話等の使用の仕方について話し合った保護者の割合 A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	（教員） 携帯電話等の使用の仕方について話し合った保護者の割合  B 60～69% (12月教員アンケート結果)		
④ 行事や諸活動に積極的に参加する。	【成果指標】（生徒） 行事や諸活動において、企画・運営に自主的に参加できた。	自主的に参加できた生徒が A 85%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	（生徒） 行事や諸活動において、企画・運営に自主的に参加できた生徒の割合  A 85%以上 (12月生徒アンケート)	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討  【分析】学校行事では、その準備・片付けも含め、生徒がそれぞれの役割に責任をもってやり遂げようとする姿を多く見ることができた  【今後の取組】現在の指導を継続し、生徒の自主性を養成する		
学校関係者評価委員会の評価	町を歩く生徒の身だしなみは昔よりも良い。挨拶もする。スマートフォンのルールづくりは親が現在スマホでどのようなことができるかを理解できていないためできていない部分がある。保護者向けにルールづくりのためのツールを用意してはどうか。講習会を開いてみるのはどうか。					
評価結果を踏まえた今後の改善策	基本的生活習慣の第一歩である挨拶の励行、時間厳守、身だしなみについては、しっかりと守れている。その場しのぎの挨拶ではなく、自然と明るくしっかりとした挨拶を身につけさせたい。スマートフォンや携帯電話の指導は、学校だけでは限界がある。使用時間の大半は家庭であることから、更なる連携を深めていく必要がある。					

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度に向けた改善策等
3 部活動やボランティア活動を推進し、学校の活性化を図る。	① 運動部は競技力を身につけるために積極的に対外試合を行う。文化部は発表や参加の機会をとらえて、実践的な発表力や表現力を積極的に身につける。	【成果指標】（生徒） 各部の目標に沿って積極的に活動する。	対外試合の質的向上の目標、参加や発表の回数の割合が A 達成できたと答えた生徒が70%以上だった。 B 達成できたと答えた生徒が50～70%だった。 C 達成できたと答えた生徒が30～50%だった。 D 達成できたと答えた生徒が30%未満だった。	（生徒） 対外試合の質的向上の目標、参加や発表の回数の割合 A 達成できたと答えた生徒が70%以上だった。  (12月生徒アンケート)	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討  【分析】本校は部加入率も高く、生徒、教員は部活動に対する意識も非常に高く、目標に向かって努力し、積極的に活動しており、自己成長につながっている。  【今後の取組】現在の取組を継続し、今後は結果につながるよう練習指導法等を工夫する。
	② ボランティア活動に積極的に参加する。	【成果指標】（生徒） 学校行事も含めた各種ボランティア活動に年3回以上参加する。	活動に年3回以上参加した生徒の割合が A 70%を越えた。 B 50%～70%であった。 C 40%～50%であった。 D 40%以下であった。	（生徒） ボランティア活動に年3回以上参加した生徒の割合 B 50～70%であった。 (12月生徒アンケート)	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討  【分析】多くの生徒がボランティア活動に意義を理解し参加した。暑中見舞いや年賀状の作成に関しては、年々意識は高くなってきている。
	③ ボランティア活動を通して、地域に関わる意義を感じさせる。（年賀状、清掃など。）	【満足度指標】（生徒） ボランティア活動を通して、地域に関わる意義を感じた。（参道清掃、暑中見舞い、年賀状、清掃、地区行事の手伝いなど）	活動を通して、地域にかかわる意義を感じた生徒の割合が A 70%を越えた。 B 50%～70%であった。 C 40%～50%であった。 D 40%以下であった。	（生徒） ボランティア活動を通して、地域にかかわる意義を感じた生徒の割合 A 70%を超えた。 (12月生徒アンケート)	【今後の取組】今後もボランティア活動の意義を伝え、体験を通して他者や地域への貢献の大切さを教えていく。
	④ ボランティア活動が将来の仕事を考える機会となった。	【満足度指標】（生徒） ボランティア活動が進路に結びついている。	活動が進路に結びついていると感じている生徒の割合が A 60%を越えた。 B 40%～60%であった。 C 20%～40%であった。 D 20%以下であった。	（生徒） ボランティア活動が進路に結びついていると感じている生徒の割合 C 20～40%であった。 (12月生徒アンケート)	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討  【分析】ボランティア活動への意識は高いが、将来の進路と結びつけて考える生徒が少ない。  【改善点】介護施設や養護老人ホーム等でのボランティア活動を企画し、生徒の将来の進路とつなげる工夫を行う。
学校関係者評価委員会の評価	地域の行事に一生懸命に参加していた。生徒なりに動こうとしており、区長の間でも話題になるほどだった。アンケートではボランティア活動が進路に結びついていないような結果だが、積み重ねによって効果は期待できる。暑中見舞いも大変喜んでもらっている。				
評価結果を踏まえた今後の改善策	ボランティア活動では、ただ単に活動した、参加したではなく、活動を通じて様々なことを感じられるように仕掛けていきたい。また、自分の進路選択のきっかけとなるような活動を増やしていければと考えている。				

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度に向けた改善策等
4 安心・安全な学校づくりを推進する。	① いじめの早期発見・早期対応に努める。	【努力指標】（教員） 些細な変化も見逃さないよう、日常の生徒の観察を注意深く行い、気になる生徒に積極的に声掛けをする。	入念な生徒観察、生徒との関係づくりに努めた教員の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70～79% D 70%以下	（教員） 入念な生徒観察、生徒との関係づくりに努めた教員の割合 A 90%以上  (12月教員アンケート結果)	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討  【分析】いじめについては、今年度は認知件数0件であった。質問紙における調査の機会を増やしたこと・「不安や悩み」に関して問う項目を付け加え、未然防止や生徒理解の一助とすることができた。  【今後の取組】「いじめは起こりえるもの」の意識を教員が常に持ち、未然防止に尽力する。
	② 通学路の安全確保に努める。	【努力目標】（教員） 生徒の安全確保のために、街頭指導を実施する。（年間3回以上参加する）	3回以上参加した教員の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%以下	（教員） 街頭指導に3回以上参加した教員の割合 A 80%以上  (12月教員アンケート結果)	【判定基準】C,Dの場合は教員全体で原因を分析し、改善策を検討  【分析】通学路の安全確保に対して、ほぼ教員全員で取り組むことができた。  【今後の取組】生徒への調査をもとに、今後も環境整備に向けて地域の協力を得、改善に取り組む。
学校関係者評価委員会の評価	門前高校の生徒ではないが、街中でヘッドホンをしながら自転車を漕いでいる生徒を見かける。交通違反であることを自覚させる指導が必要である。				
評価結果を踏まえた今後の改善策	通学路の安全確保に加え、自転車乗車マナー講習会等を行い、生徒の交通安全意識を啓発する指導を継続して行う。				